



公益社団法人 日本山岳会 宮崎支部報

第61号



平成29年(2017)4月8日 宮崎市中央公民館

日本山岳会宮崎支部第34回宮崎支部定例総会 支部長あいさつ

本日は平成29年度の支部通常総会にご出席いただきまして有難うございます。平成28年度は、前年の「支部設立30周年記念式典」のような大きな行事もありませんでしたので、通常の年間行事計画及び定例山行計画に基づいて支部活動を実施してまいりました。しかし、平成28年3月には熊本県下が震度7以上の大きな地震に2回も見舞われ、両支部の主要な行事として楽しみにしていた交流登山ができなかったことは誠に残念なことでした。

さて、支部の運営につきましては相変わらず支部会員の高齢化、会員増強の低迷、支部活動に参加する会員の限定化、財政事情の逼迫など深刻で厳しい状況が続いています。これらの現状を打破し、支部を立て直すことは今後における喫緊の課題ではないかと思われまます。以下、これからの支部運営について必要と思われる点について考えていることを述べてみたいと思います。

1. 会員の増強と支部の活性化について

高齢化などによる会員の減少、財政の逼迫などによる支部活性化への問題は、ただ宮崎支部だけのことでなく全国どの支部においても大きな課題として重くのしかかっている問題であります。会員の増強と支部の活性化は、表裏一体をなすものであり、会員が増えなければ支部活動も低迷し、クラブとしての支部の活性化を図ることはできません。今回の支部報60号の巻頭言で「会員増強に向けた提言」として、会員又は準会員の増強について、考えの一端を述べておきましたが、個別の会員勧誘や支部活動としての「中央公民館

まつり」または「ときめき宮崎の山歩き」など外部の人たちが参加する活動などにおいて会員勧誘を働きかける際の参考にいただき、一人でも多くの支部への入会を地道に、かつ根気よく続けていただきたいと思います。



末永 軍朗 会員

2. 支部の財政状況について

会員の減少による支部会費収入の減少及び本部からの支部助成金の減額等により、支部の財政事情は大変厳しい状況になっています。後ほど総会において議題として審議していただきますが、本年度は、予算の面でかなり厳しい支部運営を余儀なくされることが予想されますので、無駄を省き、切り詰めてやっていくしか方法はないかと思われまます。この財政問題につきましては現状を良くご理解いただきご協力をお願い致します。

3. 国民の祝日「山の日」制定2年目を迎えて

今年は「山の日」が制定されて2年目を迎えることとなります。「山の日」制定の意義などの啓蒙活動については、昨年中に報道機関や山岳関係者、森林管理署および環境保護団体などによるキャンペーン活動などが各地で開催されましたので大分浸透してきたような感じは受けています。我々山岳会関係者も「山の日」制定にあたっては、その一翼を担ってきたわけですから、これからは「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」としての意義を大切にして、ライフ

ワークである登山活動の活発化はもとより、山や森の存在が人類を含むすべての生き物に対して与えている恩恵に感謝する日として、また山の文化を学び、環境保護・保全問題などを考える日になることを広く一般に訴え続けていきたいものだと考えています。

4.山岳遭難事故の防止について

去る3月27日栃木県那須町のスキー場で開催されていた栃木県高校連盟が主催する高校山岳部の山岳研修会で雪上訓練をしていた高校生ら8人が雪崩に巻き込まれて死亡するという痛ましい事故が発生しました。この事故は、今のところ報道の内容でしか分かりませんが、悪天候のもとで主催者側やリーダーが訓練を実施するか中止するか、実施する場合に何をどこでどのようにして実施するかを判断する場合において、現場及び周辺の状況や天候の変化に対する見通しなどの判断が適切であったかどうかを問われるケースではないかと思われます。

平成28年も全国的に相変わらず多くの山岳遭難事故が発生しており、特に高齢者の事故が増えています。昔から山には魔物が棲んでいると言われてきましたが、低山・高山を問わず少しでも油断や気の緩みがあると魔物がいつ襲い掛かるか分かりません。実際の山行に当たっては、事前調査を徹底し無理のない登山計画を立て、天候の変化などに対しては状況判断を的確に行い、お互いが声を掛け合い注意喚起しながら、安心・安全に力点をおいた山行を心掛けていただきたいと思います。

5.会員の高齢化に伴う山行のあり方について

会員が高齢化してきますと山に行きたくても体力的に自信がもてないとか、足が悪いので皆について行けないから迷惑をかけるなどの理由で定例山行を遠慮される方がおられると聞いています。そのような方でも遠慮することなく定例山行に参加申し込みをしていただきたいと思います。無理して頂上まで登らなくても自分の体力に合わせて登れるところまで登って引き返すとか、或いは山の周りを散策したり、山菜採りをしたりして楽しむとか別メニューで行動することなどにより皆と一緒に汗を流しきれいな山の空気を吸い元氣をもらって帰ることもできますので、どしどし参加をしていただきたいと思います。

以上、当面の問題について申し上げましたが、本年度も支部の発展と活性化のためによりよくご支援とご協力お願い致しまして開会前の挨拶とします。

(第34回宮崎支部定例総会における末永支部長の挨拶より)

特別記念講演として、宮崎大学医学部・横上聖貴先生による「脳卒中について」を拝聴した。

総会議事録より（抜粋）

平成29年4月8日、宮崎市中央公民館において、定足数(会員数52名、出席38名/委任状14名)確認の後、末永軍朗支部長の挨拶に引き続き議案審議に入った。第1号議案:平成28年度事業報告、収支決算報告、第2号議案:平成29年度事業計画案、収支予算案および定例登山計画案、第3号議案:準会員および会友について支部規約一部改正案等について審議した結果、原案どおり可決承認された。支部役員改選について、事前に役員の申し出を行ったが申し出がなかったため、216回定例登山研究会(3月2日開催)で行った支部役員推薦者投票結果に基づいて水永事務局長が説明の上、提案した結果、原案どおり可決承認された。

宮崎支部役員		新役員			各委員会委員	
支部長	荒武 八起	委員会名	委員長	副委員長		
副支部長	日高 研二 恒吉 詔子	総務	谷口 敏子	櫻木 勉		
事務局長	都甲 豈好	集会	日高 研二	清水 弘子		
会計	櫻木 勉	山行	畑島 良一	武田 芳雄 平田 五男		
監事	酒井 保男 栗林 淳子	自然保護	前原 満之	四宮 林三 橋口 三枝子		
自然保護委員	石井 久夫 前原 満之	広報	久峩 慧子	多田 登美子		
		支部編集	谷口 敏子	十川 むつ子		

新役員あいさつ

第34回支部総会において、支部役員、各委員会委員を仰せつかりましたが、何分にも不慣れなため会員の皆様にご迷惑をおかけすることが多いかと存じます。皆様方のご理解ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。支部を取り巻く環境は、会員の高齢化、会員の減少、それに伴う財源の縮小など真に逆風と言えます。しかし、それを悩んでばかりはおれません。末永前支部長が支部報60号、そして今総会の挨拶でも提言されました事を会員一人ひとりが理解し実践することが重要と考えます。伝統ある宮崎支部を盛り上げるために会員相互の絆をなお一層強め、安全で楽しい山行を通して、「健康増進と豊かな人生のために」を合言葉に会員全員で宮崎支部を活気ある会に育てていきましょう。



盛り上がった懇親会

総会後、会場をひまわり荘に移し懇親会が開催された。日高研二会員の名司会の中、武田芳雄会員のギター弾き語りを皮切りに、末永軍朗会員の詩吟、谷口菊美会員・橋口

光博会員・畑島良一会員・大西雄二会員が自慢ののどを披露されるなど多くの出し物で大いに盛り上がった。最後は参加者全員で「思い出のスカイライン」を大合唱し、弓削達雄会員のメで閉会となった。



懇親会の司会
日高会員



参加者全員による合唱



懇親会閉会挨拶
弓削会員



武田会員



末永会員



谷口会員



橋口会員



畑島会員



大西会員

【4月定例山行】 4月15日（土）鰐塚山（1,118m）

春風に誘われて 清水 弘子 (No.13029)

県南の秀峰・鰐塚山は田野・北郷・三股町の境にそびえる。山頂には放送局や通信会社の電波塔が乱立するが眺望は雄大だ。

8:00 宮崎産経大学第2駐車場に集合。本日の出席者17人。他に会員紹介の若い女性お二人が参加された。5台の車に分乗、田野町の鰐塚山登山口に向う。到着後、装備を整え準備体操で体をほぐし、9:00 登山を開始する。いきなりの急登で息があがるが、涼しげな谷川の瀬音を聞きながら、シャガやサツマイナモリの花を愛で、1本目の鉄塔まで40分ほどで着く。

ここから7本目まで緩やかな登りの尾根道だ。周囲は照葉樹林と植林されたスギの混合林。谷から吹き上げる風が心地よい。3本目の鉄塔でタラの木が若芽を伸ばしている。帰りに少しだけ頂くことにした。植生も変化し低木の自然林が残っている。9合目あたりで先頭を歩くリーダーが1株のイワザクラを見つけた。けなげで美しい花だ。思わず喜びの声があがった。今年は寒さと長雨で花期が遅れたのだろうか。あちこち探すが花影もない。そのかわり道の端にショウジョウバカマが小さな頭(こうべ)をもたげ、ヤブレガサは若葉を広げ始めていた。山頂近くではアセビが小さな白花をたわわに、アブラチャンの木も黄花を付けている。11:50 山頂到着。風が強く肌寒い。集合写真を撮り思い思いに風を避けて昼食をとる。360度の遠望を楽しみ12:45 下山を開始する。2時間ほどで全員無事に登山口に着いた。産経大にて解散。帰路に着く。初参加の女性お二人は疲れも見られず、元気に下山された。今後に関すること切に願いたい。



鰐塚山 山頂



イワザクラ



ショウジョウバカマ

コースタイム 8:00産経大駐車場---9:00鰐塚山登山口出発---12:00山頂着・昼食---12:50山頂出発---15:00登山口着---15:50産経大着・解散

参加者 17名 清水 弘子・清家 順子・多田 登美子・恒吉 紹子・服部 澄子・栗林 淳子・橋口 三枝子・前原 満之・荒武 八起・吉田 直人・末永 軍朗・武田 芳雄・多田 周廣・櫻木 勉・四宮 林三・他(染矢・青木)

【九州五支部懇談会】 5月20日(土)～21日(日)

幕末・維新の海峡の地に集う

谷口 敏子(No.13062)

さわやかな5月の早朝5:30、宮崎駅に集合した参加者15名の面々は減多にない電車での旅に、うきうき、にこにこ、大人になった少年・少女の顔だ。電車の中でも修学旅行気分 of 盛り上がり。大分、小倉の乗り替えも難なく12:00には会場の関門海峡を真下に見下ろす「海峡ビューしものせき」に到着した。フロアはすでに各支部の方々と満杯。久しぶりの再会に楽しい語らいがあちこちで見られる。13:00開会。北九州支部長の挨拶のあと、五支部の活動報告が行われた。各支部共に会員減少が進むなかでの会員・会友獲得への外部に向けた、登山教室・親睦登山・家族登山・各種講習会・リーダー研修・山の文化展等々それぞれに工夫された取り組みが報告された。また、会員の高齢化が進むなかで「ポレポレの会」を作ったという報告など、年を取っても仲間とゆっくり低山を楽しむ場所があることは、会員を減らさないためにも必要であろうと思われた。

つぎに記念講演 山本 正嘉氏(鹿屋体育大学教授)の【安全登山のために】という表題で講演がなされた。近年、遭難は高齢者に圧倒的に多くそれもベテランほど多いこと、登山は思った以上にハードな運動であるが、それが十分に

認識されていないことから「行きたい山」と「行ける山」の体力度を数値化してマッチングさせる試みが示された。運動強度を表す「メッツ表」で、登山の体力度を消費エネルギーで表す方法や、【コース定数】に基づいた山のグレーディング表の作成など、自らも登山家で登山の運動生理学の研究をライフワークとされる教授ならではの講和は、安易に登山を考えてはならないという警鐘を戴いた思いであった。さらに平素行うトレーニングは筋力の強化に重点を置き、【スクワット、上体起こし、足上げ、...15回×5セットずつ、週に2～3回楽に出来ることを目標に】を実践して欲しいと結ばれた。18:00からの懇親会は、飲みながら語りながら、各支部のとおきのおしもので和やかな雰囲気の中に盛り上がっていった。わが支部は前もってお願いされた「ひよっこ」を俄か仕立ての踊り子で、精一杯手を振り足を出し、他支部を引き込みながら満場の喝采を浴びた。その後、炭坑節」を全員輪になって踊り、最後に「坊がつる賛歌」を合唱してお開きとなった。80名の多勢の参加者を支部一丸となって、心からのもてなしと案内をしていただいたことに、深い敬意と感謝を申しあげたい。

- 素面ではとても踊れぬひよっこの面がわたしをひよっこにする -



北九州支部関口興洋支部長の開会挨拶



記念講演 鹿屋体育大学 山本正嘉先生

福岡支部
高木荘輔支部長東九州支部
加藤英彦支部長熊本支部
松本莞爾支部長

懇親会後



【関門の歴史・史跡コース】5月21日 幕末・維新の足跡を辿る

櫻木 勉 (No.13818)

歴史に堪能な会員の案内でまず火の山公園散策。かつて山頂に敵の襲来を知らせる狼煙台が設けられた事から由来する。標高268mの三角点も設置、眼下に海峡の大パノラマを望み行き交う船の汽笛を聞きながらの眺望は格別である。攘夷戦争の戦跡、砲台の残骸に当時の様子が伺えた。その後下関市立歴史博物館の見学。幕末維新の英志たちの一大拠点でもあった下関の歴史を概観した。さらに足を延ばし功山寺・曹洞宗の寺、長府毛利家の菩提寺を経て、みもすそ川公園前に広がる「早鞆の瀬戸」といわれる潮流の変化が激しい海の難所の関門海峡を間近にしばし佇み、攘夷戦の往時を偲んだ。砲台跡の近くに関門トンネル人道(全長3461.4m)があり、ほぼ中心に県境があって跨いだら変な感じで海底とは思えない。15分で渡り終え、対岸の和布刈神社の境内で、目の前の潮の流れや行き交う船々を眺めながらお弁当タイム。どこでも体験しない環境で天候にも恵まれ、自然の不思議さ、海底、地上の壮大な建造物、先人の頭脳・汗、言い尽くせない苦労など、土木技術の素晴らしさ等々噛みしめて、お腹を満たした。その後門司区役所まで移動し風師山コースと合流して解散式で終了した。関係者のご苦勞に感謝致します。

- 潮に乗り一齊に^{ふね}漁船は出でゆけり旗を靡かせ源平の瀬戸へ -

コースタイム

9:00 ホテル発---9:30 火の山公園---10:00 歴史博物館---10:40 功山寺---11:10 みもすそ川公園---11:20~11:40 関門トンネル---12:00~12:40 和布刈神社~関門橋下付近にて昼食---13:00門司区役所にて解散。

参加者 6名

久峯 慧子・谷口 敏子・末永 軍朗・谷口 菊美・多田 周廣・櫻木 勉



高浜虚子の歌碑



【風師山 362.2m 山行】5月21日 海峡を望む360度の絶景

乾 正太郎 (No.12817)

5月21日良い天気恵まれ、門司区役所を出発する。清滝公園を起点とする自然企救歩道沿いに歩いて行く。ジギタリスやユキノシタの花咲く民家のわきをとおり車道に出る。風林山坊を通り高浜虚子の歌碑を見ながらやがて未舗装の歩道となる。この辺りはもみじが多く12月上旬紅葉が美しいとのこと。野鳥も多く、渡り鳥のコースとなっているらしい。早朝登山会が現在も活動している。

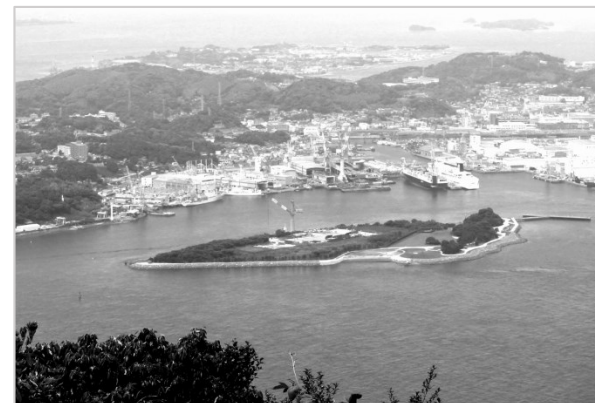
山頂付近の駐車場を過ぎるとやがて頂上である。風師山の頂上は3つの峰から成り立っている。その一つの風頭山での展望は実に良い。関門海峡(巖流島を含む)から下関方面が、まるで地図を見ているようによく見える。この頂上に榎有恒の記念碑がある。下山は上ってきた道を引き返す。登山道は木立に囲まれ海風もあり気分もよかった。

コースタイム

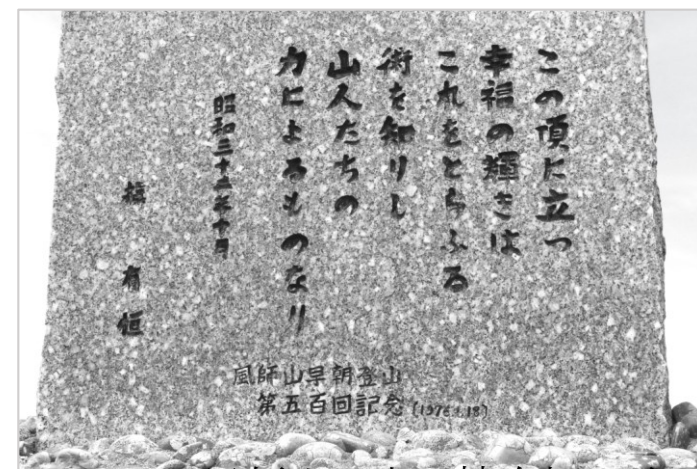
9:00 門司区役所---9:10 清滝公園---10:00 上清滝公園---10:17 もみじ谷山道わかれ---10:35 頂上付近駐車場---10:45 頂上---11:30 下山開始---12:35 門司区役所・解散

参加者 9名

清水 弘子・清家 順子・多田 登美子・恒吉 紹子・荒武 八起・都甲 豈好・乾 正太郎・武田 芳雄・畑島 良一



眼下に巖流島



風師山に立つ榎有恒の碑



会場となった「海峡ビューしものせき」前、宮崎支部参加者15名



風師山

【6月 定例山行】

6月17日（土） 高千穂峰（1,574m）

ミヤマキリシマ咲き誇る絶景へ

服部 澄子(No.13834)

午前7時、高岡町河川敷に集合し4台の車に分乗し出発する。のじりこぴあでトイレ休憩。高千穂河原駐車場で小林から参加の松木さんと合流する。登山の準備をして、ビジターセンター前の鳥居から出発する。安全祈願をし石畳の階段を登っていくと白いヤマボウシが目にとまる。続いてコガクウツギの白い花が道の左右を埋め尽くしている。その白い花に色を添えているキイチゴを見つけ、子供の頃食べたことを思い出しなつかしい。樹林帯の中に枯木が多く見えてくる。これは5年前新燃岳が大噴火し、霧島山の自然に大きな影響を与えたガスで赤松が枯死したものであろう。三叉路すぎから馬の背まで足場の悪いガレ場が続く。御鉢まで登ると高千穂峰の山頂が顔を出し、霧島連山が一望に見渡せる絶景が広がる。しかし、左下を見ると少しずつ斜面が浸食されているのが見える。少し下り霧島神宮本宮まで来ると、頂上までミヤマキリシマの花がきれいに斜面を彩っているのが見える。皆に歓声が上がり元気が湧いてくる。ここから頂上までの急坂は滑りやすいので皆慎重に登る。



ガレ場付近



高千穂河原

11:30 山頂に到着。山頂には天孫降臨の地を偲ばせる天の逆鉾が立っている。かつて、坂本竜馬と妻おりょうも登ったと伝えられ、これが日本の新婚旅行の始まりとも言えると山歩きの本に書かれている。残念なことに山頂を示す石碑が転倒していて数名の力ではとても起こせない。遮るもののない展望を楽しみながら昼食をとる。

下りは午前中と違う砂滑りで樹林帯まで下りてくると、ホトギス、カッコー、ウグイスが澄んだ声で鳴いており「お疲れさん」と労われているようで心が洗われた。登山口まで下りてくると別行動の3人が待っており合流する。ビジターセンターでビデオを15分位見る。霧島山系の成り立ちが良く分かりとても良かった。その後、帰路につく。



馬の背



高千穂峰山頂

コースタイム

高千穂河原---9:10三叉路---9:35馬の背---10:35霧島神宮本宮---10:55天の逆鉾頂上・昼食---11:40頂上出発---12:10霧島神宮本宮---12:32馬の背---14:00高千穂河原---ビデオ観賞---15:00出発---16:30高岡河川敷・解散

参加者 18名

清水 弘子・清家 順子・谷口 敏子・多田 登美子・服部 澄子・栗林 淳子・前原 満之・荒武 八起・都甲 豈好・日高 研二・谷口 菊美・武田 芳雄・多田 周廣・櫻木 勉・服部 岩男・四宮 林三・畑島 良一・松木さん(小林から)

【自然保護委員会】

「森づくり活動」田野の森育林作業 7月2日(日) 前原 満之(No.9878)

8時30分、クロスモール清武に集合し、田野に向かった。
雨の合間の猛暑日だったが、山は涼しい。

所々に残る草と道路沿いの草刈。それに枝打ち、3本ほど倒れていた苗木を起こす作業も実施した。



かつて悪戦苦闘したカヤ藪の
勢いが衰えてきて感慨深い。
枝打ちで林内がスッキリ。



砂利道が荒れて、現地まで上られるか心配したが、何とか着いた。恒例の休憩時間のスイカは最高！12時頃には作業を終え昼食。帰路、県道28号線に出てハーレーダビッドソン付近から森の位置を確認し、ヤマザクラの咲く頃に想いをはせる。

参加者 7名 橋口三枝子 前原満之 荒武八起 日高研二
末永軍朗 武田芳雄 四宮林三

【みやざきの自然】

ナツツバキ (*Stewartia pseudo-camellia*) とヒメシヤラ (*Stewartia monadelphica*) 石井 久夫 (No.5120)

霧島山系の高いところ(標高1,000m位)の広葉樹林帯に6月から8月にかけて白い花を咲かせる樹木がある。木肌をよく見ると一見スベスベして猿がとても登れそうもないような木。調べてみると日本の各地でサルナシ、サルタナシ、サルタなど猿にまつわる名前を付けて呼ばれる木がたくさんあった。特に面白いのは神奈川県丹沢でヒメシヤラをサルスベリ、スベリと呼び、御殿場地方では樹皮の色によりアカサルタ(ヒメシヤラ)、クロサルタ(ナツツバキ)と区別して呼んでいる。ナツツバキは夏に咲くのでナツツバキと呼ばれ、霧島山系にも自生し成長すると高さ6m、幹の直径20cm以上の落葉樹である。樹皮は黒褐色で薄く剥がれマダラ状になる。直径5-6cmの白い花を咲かせ、蒴果は5裂する。福島以西九州山地に自生する。

ヒメシヤラは霧島山系では至る所に大群落を作る落葉高木で、成長すると8-13mの高さになり、樹皮は滑らかで葉は互生、果実は先がくちばし状で成熟すると5裂する。花はナツツバキに比べると小さく2cm位である。ナツツバキはシヤラノキとも言われる。ヒメシヤラは花が小さいのでヒメシヤラと名前を付けられ、仏教の聖樹である沙羅双樹にちなみシヤラノキと呼ばれたのでは。貝原益軒の「大和本草」に沙羅樹と書かれているが、外来樹種として「真ニ沙羅樹ナリキヤ、未詳」と書いてあり、日本ではナツツバキの他にエゴノキ科のハクウンボクが沙羅双樹として寺院によく植えてあり、印度の沙羅双樹のように白い花が

咲いているので当たらずとも遠からずである。

平家物語の有名な「祇園精舎の鐘の音・・・沙羅双樹の花の色・・・」の中の沙羅双樹はインド、ヒマラヤ原産のフタバガキ科のサラノキ(*Shorea nobusta*)のことでナツツバキではなく釈迦入滅の地の東西に2株ずつのサラノキが生息していたので双樹と呼ばれ、釈迦が死を迎えようとしている時に、この木全体が真っ白に色を変えたという伝説がある。江戸時代中期の百科事典「和漢三才図会」では「沙羅双樹比叡山有之其花白单芋状似山茶花」とナツツバキを本来のサラノキに見立てて寺院に植えるようになったと推定している。サルスベリのサルは猿ではなく沙羅双樹の沙羅から転訛したとの説がある。ナツツバキやヒメシヤラは昔から有用材として利用され樹肌のスベスベした質感が日本間の床柱として重宝され、おもちゃ、箱物、器具の柄、塗物木地、櫛等にも用いられている。この他に福岡県英彦山にちなんだ名が付いたヒコサンシヤラノキがあり、7月頃に直径4cmの白い花を付ける。

ナツツバキ
Stewartia pseudocamellia



翁草

永峯麗子(一二五五二)

駒留の門入りゆけば寄りてくる
御崎馬は澄みし目をして

翁草暗赤紫色に咲きるを
見つ超えゆくいくつかの丘を

湯をわかすコッヘルの近くにも翁草の
瘦果なびけり海からの風に

都井岬
自生する三千本の蘇鉄詠み給ひし
昭和天皇のおほみうた一首

蒙古馬をそのルーツと伝えつつ
御崎馬を国の天然記念物とす

[事務局だより]

支部山行の予定

8月	定例	大浪池	山の日ときめき家族登山	8月11日	霧島町
9月	定例	天の古道		9月16日	日之影町
10月	第33回全国支部懇談会、他			10月13-15日	茨城支部主管
	定例	女鈴山・男鈴山		10月15日	日南市
11月	第33回宮崎ウエストン祭			11月3-4日	高千穂町
12月	定例	双石山清掃登山		12月9日	宮崎市

宮崎支部会務報告(4月 - 6月)

月日	事業・行事	開催場所	人員	備考
4. 1	宮崎支部報第60号発行			A4, 8ページ 200部
4. 2	事務引き継ぎ	宮崎市 事務局長宅	3	
4. 4	会計引き継ぎ	宮崎市 市民活動センター	3	
4. 8	平成29年度通常総会	宮崎市 中央公民館	52	内委任状16
4. 8	支部役員・委員長等会議	宮崎市 中央公民館	9	
4. 8	第217回定例登山研究会	宮崎市 中央公民館	36	
4. 15	4月定例山行	宮崎市 鰐塚山	17	会員15, 他2
5. 11	支部役員・委員長等会議	宮崎市 中央公民館	9	
5. 11	第218回定例登山研究会	宮崎市 中央公民館	24	ミニ講話: 遭難対策(畑島)
5. 20-21	九州5支部懇談会	北九州市 海峡ビューしものせき	15	
6. 3	支部役員・委員長等会議	宮崎市 中央公民館	9	
6. 3	第219回定例登山研究会	宮崎市 中央公民館	25	ミニ講話: マダニ対策(荒武)
6. 17	6月定例山行	高原町 高千穂峰	18	

グループ山行(届け出分)

月日	山座	場所	人員(代表)	月日	山座	場所	人員(代表)
5. 4	箱根外輪山	箱根町	7(畑島)	5. 8	五葉岳	日之影町	3(清水)
5. 5	北アルプス燕岳	長野県	11(畑島)	6. 2	高千穂の峰	高原町	6(畑島)
5. 5	白鳥山	えびの市	6(武田)	6. 5	開聞岳	指宿市	6(畑島)
5. 6	大崩山	北方町	2(畑島)	6. 5	大浪池	えびの市	6(武田)
5. 6	五葉岳	日之影町	4(都甲)				

事務局からのお知らせ

1. 山岳保健加入実態調べ

定例登山研究会時に加入実態調査を行います。保険に加入されている方は「保険証の写し」を提出して下さい。

2. グループ登山の事前届出について

グループで登山される時は、登山計画を事前に電話・FAX・書面等で必ず事務局宛に届けて下さい。

編集後記

新役員による初めての会報です。既刊誌の体裁を受け継ぎながらも少しずつ工夫を加え、読みやすく親しみある会報を目指したいと思います。皆様の忌憚のないご意見を何卒宜しくお願い申し上げます。この6月に祖母・傾・大崩がユネスコエコパークに認定されました。綾の照葉樹林(2012年認定)に引き続く快挙です。国内9ヶ所のうち2ヶ所が宮崎県内です。世界も認めるこの自然の中を思う存分歩きましょう。

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第61号

発行責任者: 荒武 八起

編集責任者: 谷口 敏子

事務局: 都甲 豈好

〒880-0926 宮崎市月見ヶ丘5-20-4

Tel, Fax 0985-53-0150

E-mail toko150@miyazaki-catv.n.jp

郵便口座 記号17330 番号9336371

銀行口座 宮崎銀行県庁支店普通 28668

日本山岳会宮崎支部